

再評価調書

NO. 1

事業名	総合流域防災事業		事業区間	一級河川 芳野川 福井市稲多元町～坂井市丸岡町羽崎		
事業目的						
<p>芳野川は、一級河川九頭竜川の支川で福井市北部市街地を流れているおり、現況の流下断面が不足していることから流下能力を現況10m³/Sから計画39m³/S（治水安全度約1/2→1/50）に高めることで水害から住民の生命と財産を守ることを目的としている。また、本事業計画区間において福井市施工の森田北東部土地区画整理事業が実施中（H25年度完予定）であり、住宅市街地基盤整備区間L=1,580mと併せて計画区間の整備が急務となっている。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=3,475m 土砂掘削 V=57,000m³、護岸 A=22,100m²、橋梁 N=21橋</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成7年度	平成8年度	平成10年度	平成29年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 （H21年度まで）	進捗率 （H21末）	残事業費 （H22以降残額）	備考
予 算 額		8,558,600	6,504,100	76.0%	2,054,500	
財 源 内 訳	国 庫	4,279,300	3,252,050	/	1,027,250	50%
	県	4,279,300	3,252,050		1,027,250	
費用対効果		3.0（総費用 115.4億円、総便益 346.1億円）				
事業の進捗状況	H21までの状況	全体延長3,475mのうち、平成21年度末で2,600m完成。また区画整理事業区域の橋梁改築（16号橋）および約200mの護岸整備を先行して実施している。				
	H22以降残事業	福井市施工の区画整理事業との調整を図り、橋梁および護岸整備を実施していく。				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
事業区間は、福井市の北部市街地に位置し、事業を休止した場合、住宅・学校・病院・福祉施設・新幹線道路等に対し、洪水に伴う被害が及ぶことで住民生活に大きな影響があり安全性が確保できない。また、土地区画整理事業区域では新規住宅建設が進んでおり、それら住宅の浸水が予想され土地区画整理事業の実施にも影響を及ぼす。						
備 考	<p>区域内被害想定：浸水戸数 1,114戸 農地浸水面積 2ha 区域内重要施設等：県道(1)、小学校(1)、公民館(1)、公民館(1) 災害弱者施設：病院(1)、保育園(1)、老人福祉施設(1) [過去の災害実績] 昭和56年7月（梅雨前線） 浸水戸数80戸、農地浸水面積21ha</p>					

再評価調書

NO. 2

事業名	総合流域防災事業	事業区間	一級河川 七瀬川 福井市内山梨子町～大年町			
事業目的						
七瀬川は、一級河川九頭竜川の支川で、主には福井市の北部田園地区を流れるものの、一部集落を流れる河川である。現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の80m ³ /sから170m ³ /s((治水安全度1/1.1→1/2.5)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=3,100m 掘削工 L=200千m ³ 橋梁 N=4橋 樋門 N=13基 堰 N=1箇所 揚水機場 N=3箇所 用地及び補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成2年度	平成12年度	平成15年度	平成29年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H22以降残額)	備考
予算額		3,400,000	1,644,700	48.4%	1,755,300	
財源内訳	国庫	1,700,000	822,350	/	877,650	50%
	県	1,700,000	822,350		877,650	
費用対効果		1.56 (総費用 38.2億円、総便益 59.6億円)				
事業の進捗状況	H21までの状況	全体延長3,100mのうち、平成21年度末で最下流部の延長600mの河川改修が完了。また、堰1箇所および橋梁1橋等も完成。				
	H22以降残事業	上流側の残延長2500mの河川改修および橋梁3橋等を整備していく。				
他事業との関連						
下流改修区間(L=600m)の河川付替用地は、福井内山梨子土地改良が施工する圃場整備事業(H13～22)と連携して確保しており、一体的な整備を進めている。						
コスト縮減等の取組み						
近隣の圃場整備事業に建設発生土を流用することによりコスト縮減を図っている。						
事業を休止した場合の影響						
事業区間は山間に集落が点在した区間で、いったん氾濫すると谷一帯が水面化し、避難路である県道も水没する。事業を休止した場合、集落・保育園・幹線道路(県道福井大森河野線、八幡横越線)等に対し、洪水に伴う被害がおよぶことはもとより、避難路がないことにより地元住民の生命に著しい危険が生じる。						
備考	区域内被害想定 : 浸水戸数86戸 農地浸水面積 53.4ha 区域内重要施設等 : 県道(2)、JA(1)、保育園(1)、					
	[過去の災害実績] 昭和56年7月(梅雨前線) 浸水戸数39戸、農地浸水面積62.6ha 平成16年7月(福井豪雨) 浸水戸数53戸、農地浸水面積70ha					

再 評 価 調 書

NO. 3

事業名	道路改良事業	事業区間	一般国道157号 大野市南新在家～吉			
事業目的						
<p>中部縦貫自動車道永平寺大野道路の完成にともない、大野市街地から大野インターチェンジに向かうまたは大野インターチェンジから市街地に流入する交通量が増えることとなり、現国道157号のさらなる交通混雑の悪化が予想される。</p> <p>このため、市街地東部に位置する市道を改良し、市街地を取り囲む外郭環状道路の一部として整備することで、市街東部の住民および南部の工業団地と福井市方面のアクセスを飛躍的に向上させ、市街地内に目的のない通過交通をバイパスへと誘導することにより、市街地内の交通混雑の緩和を図る。</p> <p>また、現国道157号の交通量が減少するため、車道幅員を減少し歩道の幅員を広げるといった道路空間の再配分が可能となり、市街地内の歩行者の安全確保が図られ、市街地内の観光の利便性が向上する。</p> <p>さらに中部縦貫自動車道へのアクセス向上により、高次医療機関への移動時間短縮など、大野市民の安全・安心を確保するとともに、当該地域の産業や観光の振興に寄与する。</p>						
全体事業内容						
全体延長 L=4,650m 幅員 W=13.0(25.5)m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成12年度	平成13年度	平成16年度	平成24年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H22以降残額)	備考
予 算 額		8,100,000	4,380,000	54.1%	3,720,000	
財 源 内 訳	国 庫	4,050,000	2,190,000	/	1,860,000	
	県	4,050,000	2,190,000	/	1,860,000	
費用対効果		1.5（総費用 89億円、総便益 131億円）				
事業の進捗状況	H21までの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度までに、1,200mを暫定2車線で部分供用済。 ・平成21年度は大野市南新在家、横枕、堂本地区の工事を施工中。 				
	H22以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度の中部縦貫自動車道(勝山IC～大野IC間)の完成時期に合わせた完成供用を目指す。 				
コスト縮減等の取組み						
<ul style="list-style-type: none"> ・近年のJR越美北線(越前大野駅～九頭竜湖駅間)における列車運行本数の減少に伴い、道路と鉄道の交差方式を「立体交差(跨線橋)」から「平面交差(踏切)」へ見直し、約9億円の工事コストの縮減を図る。 						
事業を休止した場合の影響						
<p>「大野バイパス」は中部縦貫自動車道(大野IC)へのアクセス道路であることから、事業を休止した場合、中部縦貫自動車道(大野IC)への円滑なアクセスが出来なくなるため、中部縦貫自動車道の高規格幹線道路としての機能が十分に発揮できない。そのほか、大野市街地の現国道157号の交通混雑および事故の増加、大野市の産業および観光の振興が図れなくなることが懸念され、また、現在までの投資が無駄になる。</p>						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 4

事業名	総合流域防災事業		事業区間	一級河川 河内川 吉田郡永平寺町山王～栗住波		
事業目的						
河内川は、一級河川九頭竜川の支川で、現況の流下断面が低いため、流下能力を現況の4m ³ /sから70m ³ /s(治水安全度 約1/1→1/30)に高め、上志比の中心部である山王地区における家屋や主要な公共施設等への浸水を防止する。						
全体事業内容						
全体延長 L= 380m 護岸工 3,000m ² 橋梁N=2橋 樋門N=1基 堰N=1箇所 用地及び補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成12年度	平成12年度	平成12年度	平成22年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H22以降残額)	備考
予 算 額		1,145,000	995,000	86.9%	150,000	
財 源 内 訳	国 庫	572,500	497,500	/	75,000	1/2
	県	572,500	497,500		75,000	
費用対効果		5.29 (総便益92.380 億円、総費用17.461 億円)				
事業の進捗状況	H21までの状況	全体延長380mのうち、平成21年度末で延長300m分の護岸および県道橋・町道橋架替工 2橋 等も完成。				
	H22以降残事業	栗住波川合流地点までの残り80mの護岸工事および取水施設の施工。				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
当該河川改修においては、栗住波川合流地点までの残り80mの護岸工事および取水施設の施工を残しており、施工中断することで、栗住波川合流点から下流は治水安全度1/30は解消せず山王地区中心部への浸水・氾濫被害は解消できない。						
備 考	被害想定区域内:①浸水戸数232戸 ②農地浸水面積 32.0ha ③重要な施設: 県道(1)、警察署(1)、消防署(1)、鉄道(1)、町役場(1) 公民館(1)、農協倉庫(1)、郵便局(1) ④災害弱者施設: 老人介護施設(2) 病院(1) [過去の災害実績] S56.7(梅前) 浸水141戸、農地浸水面積5.0ha、S58.9(台風) 浸水戸14戸、農地浸水面積0.3ha H 7.7(梅前) 浸水 2戸、農地浸水面積1.0ha、H10.8(梅前) 浸水戸48戸、農地浸水面積3.0ha					

再 評 価 調 書

NO. 5

事業名	砂防事業	事業区間	智那洞谷川(ちなぼらだにがわ) 大野市後野			
事業目的						
<p>智那洞谷川流域の地質は、新生代の堆積岩で風化が著しく進み、いたるところで崩壊を起こし土石が流出しやすい状態にある。流域内では過去に台風及び豪雨によって土砂災害が発生しており、流域内には崩壊地が多数あるため、今後の豪雨時には土砂流出による災害の発生が懸念される。</p> <p>このため、地域住民の生命と財産を土砂災害から守るため、砂防えん堤を整備する。</p>						
全体事業内容						
えん堤工 3基 調査設計委託 1式 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成10年度	平成11年度	平成11年度	平成26年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H22以降残額)	備考
予 算 額		1,129,000	597,800	52.9%	531,200	
財 源 内 訳	国 庫	564,500	298,900	/	265,600	1/2
	県	564,500	298,900		265,600	
費用対効果		1.05 (総便益 11.37億円、総費用 10.81億円)				
事業の進捗状況	H21までの状況	えん堤3基のうち、平成21年度末迄に、えん堤1基が完成し、2基目のえん堤を施工中。				
	H22以降残事業	えん堤2基目(H16～H24)、えん堤3基目(H25～H26)の完成を目指す。				
コスト縮減等の取組み						
建設発生土を他工事に流用することにより、コスト縮減を図っている。						
事業を休止した場合の影響						
本溪流には崩壊地が数多くあり、集中的な豪雨により下流域の人家等に多大な被害を与える恐れがある。 また、県道が寸断されると、石徹白川上流にある和泉前坂家族旅行村などに訪れている不特定多数の利用者が孤立することが予想され、地域の生活や経済に大きな影響を与える。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 6

事業名	砂防事業	事業区間	宇波西川(うわせがわ) 若狭町気山			
事業目的						
<p>宇波西川流域は、花崗岩が風化し、表層崩壊しやすい地質が広く分布している。平成11年8月の集中豪雨では土石流が発生して下流河川の埋塞や護岸損壊が生じた。流域は溪流の浸食が激しく、多量の不安定土砂が溪流に堆積しており、今後の豪雨により土砂が流出し下流域の人家等への被害が懸念される。</p> <p>このため、下流域の住民の生命と財産を保全するとともに交通機能の確保を図るため、砂防えん堤を整備する。</p>						
全体事業内容						
えん堤工 2基 調査設計委託 1式 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成12年度	平成13年度	平成13年度	平成23年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H22以降残額)	備考
予 算 額		746,000	613,300	82.2%	132,700	
財 源 内 訳	国 庫	373,000	306,650	/	66,350	1/2
	県	373,000	306,650		66,350	
費用対効果		6.02 (総便益 44.97億円、総費用 7.47億円)				
事業の進捗状況	H21までの状況	えん堤2基のうち、平成21年度末迄に、えん堤1基が完成し、2基目のえん堤を施工中。				
	H22以降残事業	えん堤2基目(H18~H23)の完成を目指す。				
コスト縮減等の取組み						
建設発生土を他工事に流用し、また、工事で発生する巨石を護岸に活用することにより、コスト縮減を図っている。						
事業を休止した場合の影響						
本溪流には崩壊地が数多くあり、集中的な豪雨により下流域の人家等に多大な被害を与える恐れがある。 また、下流には重要幹線である国道27号とJR小浜線があり、寸断されると地域の生活や経済に大きな影響を与える。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 12

事業名	砂防事業	事業区間	鬼谷川(おんたにがわ) 大野市佐開			
事業目的						
<p>鬼谷川流域の地質は、新生代の火山岩で、風化・浸食が進み、また、流域内には数多くの崩壊地がある。過去には幾度となく台風及び豪雨によって土砂災害が発生している。溪岸侵食や山腹崩壊がいたるところで発生しており、再度集中的な雨が降れば、下流域の人家等に多大な被害を与える恐れがある。</p> <p>このため、下流域の住民の生命と財産を土砂災害から守るため、砂防えん堤を整備する。</p>						
全体事業内容						
えん堤工 4基 調査設計委託 1式 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成7年度	平成7年度	平成7年度	平成24年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H22以降残額)	備考
予 算 額		1,023,700	723,700	70.7%	300,000	
財 源 内 訳	国 庫	563,035	398,035	/	165,000	5.5/10
	県	460,665	325,665		135,000	
費用対効果		2.79 (総便益 32.82億円、総費用 11.78億円)				
事業の進捗状況	H21までの状況	えん堤4基のうち、平成21年度末迄に、えん堤3基が完成。				
	H22以降残事業	えん堤4基目(H22～H24)の完成を目指す。				
コスト縮減等の取組み						
建設発生土を他工事に流用することにより、コスト縮減を図っている。						
事業を休止した場合の影響						
本溪流には崩壊地が数多くあり、集中的な豪雨により下流域の人家等に多大な被害を与える恐れがある。事業を中止した場合は、人家戸数も多く農地や主要道路もあり、地域の生活や経済に大きな影響を与える。						
備 考						

再評価調書

NO. 13

事業名	砂防事業	事業区間	荒島谷川(あらしまだにがわ) 大野市下山			
事業目的						
<p>荒島谷川流域は、花崗岩が風化し表層崩壊しやすい地質が広く分布している。過去には台風及び豪雨によって流域各所から、大量の土砂が流出して土砂災害が発生している。流域内には崩壊地が多数あり、今後の豪雨時の土砂流出による災害の発生が懸念される。</p> <p>このため、下流域の住民の生命と財産、重要路線である国道158号およびJR越美北線を土砂災害から守るため、砂防えん堤を整備する。</p>						
全体事業内容						
えん堤工 2基 調査設計委託 1式 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成9年度	平成9年度	平成9年度	平成24年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H22以降残額)	備考
予 算 額		750,000	588,100	78.4%	161,900	
財 源 内 訳	国 庫	412,500	323,455	/	89,045	5.5/10
	県	337,500	264,645		72,855	
費用対効果		1.99 (総便益 17.99億円、総費用 9.02億円)				
事業の進捗状況	H21までの状況	えん堤2基のうち、平成21年度末迄に、えん堤1基が完成し、2基目を施工中。				
	H22以降残事業	えん堤2基目(H16~H24)の完成を目指す。				
コスト縮減等の取組み						
建設発生土を他工事に流用することにより、コスト縮減を図っている。						
事業を休止した場合の影響						
本溪流には崩壊地が数多くあり、集中的な豪雨により下流域の人家等に多大な被害を与える恐れがある。また、下流には重要路線である国道158号があり、寸断されると地域の生活や経済に大きな影響を与える。						
備 考						

再評価調書

NO. 14

事業名	砂防事業	事業区間	女神川(おながみがわ) 勝山市平泉寺町平泉寺			
事業目的						
<p>女神川流域の地質は、新生代の火山岩であり、風化による溪岸侵食、山腹崩壊がいたるところで発生している。平成10年には集中豪雨により被害を受けており、今後の集中豪雨時の土砂流出により下流域の人家や施設に多大な被害を与える恐れがある。</p> <p>このため、地域住民の生命と財産および国道157号等を土砂災害から守るため、砂防えん堤を整備する。</p>						
全体事業内容						
えん堤工 4基 調査設計委託 1式 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成12年度	平成13年度	平成15年度	平成28年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H22以降残額)	備考
予 算 額		972,000	493,600	50.8%	478,400	
財 源 内 訳	国 庫	534,600	271,480	/	263,120	5.5/10
	県	437,400	222,120		215,280	
費用対効果		4.54 (総便益 65.22億円、総費用 14.36億円)				
事業の進捗状況	H21までの状況	えん堤4基のうち、平成21年度末迄に、えん堤1基が完成し、2基目のえん堤を施工中。				
	H22以降残事業	えん堤2基目(H17~H22)、えん堤3基目(H23~H25)、えん堤4基目(H26~H28)の完成を目指す。				
コスト縮減等の取組み						
建設発生土を他工事に流用し、また、工事により発生する巨石を護岸に活用することで、コスト縮減を図っている。						
事業を休止した場合の影響						
本溪流には崩壊地が数多くあり、集中的な豪雨により下流域の人家等に多大な被害を与える恐れがある。また、下流には重要路線である国道157号等があり、寸断されると地域の生活や経済に大きな影響を与える。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 15

事業名	広域河川改修事業	事業区間	一級河川 大蓮寺川 勝山市栄町2丁目～勝山市旭町2丁目		
事業目的					
大蓮寺川は一級河川九頭竜川の支川浄土寺川に合流する支川で勝山市街地を流れる河川である。現況断面の流下能力が低いため、流下能力を現況の29m ³ /sから94m ³ /s(治水安全度1/2→1/50)に高め、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。					
全体事業内容 ※上段 () 書は見直し前					
(全体延長 L=2,270m 函渠工 L=2,090m 立坑 2箇所 流入工 1式)					
全体延長 L=2,915m 現川改修L=690m 放水路元禄線L=815m、放水路立石線L=1,410m、堤外水路1式、流入工1式 樋門2基					
事業計画 <small>※上段 () 書は見直し前</small>	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度	
	平成4年度	平成4年度	平成15年度	(平成30年度) 平成36年度	
事業費 (千円) <small>※上段 () 書は見直し前</small>	全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H22以降残額)	備考
予 算 額	(9,800,000) 12,200,000	(1,736,600) 1,736,600	14.0% 14.2%	(8,063,400) 10,463,400	
財 源 内 訳	国 庫	(4,900,000) 6,100,000	(868,300) 868,300	(4,031,700) 5,231,700	50%
	県	(4,900,000) 6,100,000	(868,300) 868,300	(4,031,700) 5,231,700	
費用対効果		前回:17.5(総便益1,673.6億円、総費用95.5億円) 今回: 7.5(総便益 767.1億円、総費用102.5億円)			
事業の進捗状況	H21までの状況	・分流支川完了、用地補償九頭竜川合流部および支川部完了 現在、第4回九頭竜川流域懇談会(H21.11.18)にて了承を得られ、近畿地方整備局に河川整備計画変更認可申請予定			
	H22以降残事業	まちづくりや元禄線改良などの関連事業と整合を図りつつ、H24年度までの現川改修を促進する。平成30年度までに元禄線放水路を施工完了を目指す。元禄線完了後に立石線放水路の平成36年度完成を目指す。			
コスト縮減等の取組み					
建設発生土を、他公共事業等への盛土材として有効利用(工事間流用)を図る予定である。 早期効果発現、コスト縮減を目的として、河川整備計画変更中					
事業を休止した場合の影響					
事業区間は、勝山中心市街地にあり、事業を休止した場合、住宅・学校・病院・福祉施設・幹線道路等に対し、洪水に伴う被害が及ぶことで住民生活に大きな影響があり、安全性が確保できない。					
備 考	区域内被害想定:世帯数 床上90世帯、床下1,490世帯、農地 8.9ha 区域内重要施設:国道157号、県道(2)、勝山市役所、小中高等学校(2)、公民館(14)、過去の災害実績平成10年8月7日(梅雨前線) 浸水戸数284戸、浸水面積57ha				

再 評 価 調 書

NO. 16

事業名	道路改良事業	事業区間	一般国道416号 福井市重立町～吉田郡永平寺町松岡吉野堺			
事業目的						
<p>一般国道416号吉野堺バイパスは、中部縦貫自動車道の整備に伴い東側に移設される「福井北インターチェンジ(I C)」および、新設される「松岡インターチェンジ(IC)」への円滑なアクセスを確保するものである。当事業の整備により、高規格幹線道路と一般道路との一体的な運用が可能となり、地域間の連携機能が強化される。</p>						
全体事業内容 ※上段 () 書は見直し前 (全体延長 L=750m (I期工事区間)) 全体延長 L=1,100m (I期工事区間 L=750m、II期工事区間 L=350m) 幅員 W=13.0(23.0)m						
事業計画 ※上段 () 書は見直し前	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成12年度	平成12年度	平成14年度	(平成23年度) 平成28年度		
事業費 (千円) ※上段 () 書は見直し前		全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H22以降残額)	備考
予 算 額		(1,500,000) 2,500,000	890,000	(59.3%) 35.6%	(610,000) 1,610,000	
財 源 内 訳	国 庫	(817,000) 1,417,000	451,000	/	(366,000) 966,000	
	県	(683,000) 1,083,000	439,000		(244,000) 644,000	
	費用対効果 3.2 (総費用 25億円、総便益 81億円)					
事業の進捗状況	H21までの状況	・I期工事区間(L=750m)のうち、福井方面の2車線(L=480m)を平成21年12月中に暫定供用予定。				
	H22以降残事業	・松岡ICへの円滑なアクセスを確保するため、平成22年度よりII期工事区間(L=350m)に延伸着手する。 ・中部縦貫自動車道(福井～大野間)の全線供用に間に合うよう、事業の早期完成を目指す。				
コスト縮減等の取組み						
・リサイクル材の活用や建設発生土の流用により、工事コストの縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
「吉野堺バイパス」は中部縦貫自動車道(福井北IC、松岡IC)へのアクセス道路であり、事業を休止した場合、各インターチェンジでの円滑な乗り降りができないため、中部縦貫自動車道の高規格幹線道路としての機能が十分に発揮できず、現在までの投資も無駄になる。						
備 考						

再評価調書

NO. 17-1

事業名	港整備交付金事業		事業区間	内浦港 音海地区 高浜町音海		
事業目的						
<p>地方港湾である内浦港及び第1種漁港である上瀬漁港(日引地区)を一体として整備することにより、内浦港における取扱貨物量の増加を図り、また、釣体験や漁業体験、水産物の味覚体験の楽しみが一体となった親しみのある海づくりを展開することで、内浦湾全体の産業活性化を図る。</p>						
全体事業内容 ※上段()書は見直し前						
(岸壁 L=30.0m, 物揚場 L=120.0m, 護岸 L=102.0m, 道路 L=170.0m, 緑地 A=3,000m2) 岸壁 L=30.0m,護岸 L=54.8m						
事業計画 ※上段()書は見直し前	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成17年度	—	平成17年度	平成21年度		
事業費(千円) ※上段()書は見直し前	全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H22年度以降残額)	備考	
予 算 額	(2,344,000) 1,978,400	1,978,400	(84.4%) 100.0%	(0) 0		
財 源 内 訳	国 庫	(955,902) 832,572	832,572	/	(0) 0	1/3,4/10,1/2
	県	(1,388,098) 1,145,828	1,145,828		(0) 0	
費用対効果		(1.3(総費用 43億円、総便益 54億円) ※港湾機能施設整備事業含む) なし(整備休止)				
事業の進捗状況	H21までの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎地盤の改良、および基礎捨石工はほぼ完了 ・本土工は岸壁部が一部完成済み 				
	H22以降残事業	・なし				
コスト縮減等の取組み						
なし						
事業を休止した場合の影響						
<ul style="list-style-type: none"> ・物揚場および護岸の方塊ブロック製作が完了し仮置きされているため、事業を休止した場合は不要となり、他事業への転用を図る必要がある。 						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 17-2

事業名	港湾機能施設整備事業	事業区間	内浦港 音海地区 高浜町音海		
事業目的					
<p>内浦港は昭和44年の開港以降、主に原木の輸入を主体とする国際貿易港として、地域経済の発展に重要な役割を果たしてきた。</p> <p>しかし、近年、内浦港では野積場の不足および貨物船舶の大型化への対応の遅れにより、効率的な荷捌きやストックが困難となり、他港へ貨物が流出する事態となっている。このため、他事業の岸壁整備と連携してふ頭用地の整備を行うことにより、課題である施設能力不足の解消を図る。</p>					
全体事業内容 ※上段 () 書は見直し前					
(ふ頭用地埋立 V=127,500m ³ , ふ頭用地舗装 A=10,800m ² , フェンス・照明1式) なし:整備休止					
事業計画 <small>※上段 () 書は見直し前</small>	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度	
	平成20年度	—	平成20年度	(平成22年度) 平成21年度	
事業費 (千円) <small>※上段 () 書は見直し前</small>	全体事業費	執行済み額 (H21年度まで)	進捗率 (H21末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額	(310,000) 25,683	25,683	(8.3%) 100.0%	(284,317) 0	
財 源 内 訳	国 庫		/		
	県	(310,000) 25,683	25,683	(284,317) 0	
費用対効果		(1.3(総費用 43億円、総便益 54億円) ※港整備交付金事業含む) なし(整備休止)			
事業の進捗状況	H21までの状況	・調査測量設計が完了			
	H22以降残事業	・なし			
コスト縮減等の取組み					
なし					
事業を休止した場合の影響					
<ul style="list-style-type: none"> ・埋立用の土砂が近隣の借地に仮置きされているため、他事業に転用する必要がある。 ・ふ頭用地を整備せず事業を終えるため、既投入事業費の償還を供用中の1号および2号ふ頭用地の使用料収入で償還する必要がある。 					
備 考					